

自治体名	千葉県
------	-----

## 女性の健康支援対策の概要

平成13年から、女性の医療の充実と個々の女性が健康に関する自己管理能力を身につけることを目指して「生涯を通じた女性の健康支援事業」を推進している。主な事業としては、健康福祉センター（保健所）を核に健康相談、健康教育、地域の支援体制づくりの他、保健医療従事者等の研修会を実施している。

女性が自分自身で健康管理をすることができるようになる働きかけとして、健康を自己管理するスタートになる年代であるこれまで介入が少なかった若い女性（高校生）に焦点をあて、実態調査や高校生の健康課題に関わる情報提供する媒体を作成して事業展開を図る。

また、中高年期における健康支援においては、女性も生活習慣病が大きな比重を占めており、その予防や管理として健診等において自己の健康状態を把握するとともに、生活習慣を改善することが不可欠であるが、個人の動機付けや継続の意欲維持が大きな課題となっている。この課題解決に向けて、IT システム上で、健康情報の提供の他、健診データと自己測定データ、診療データを一元管理・閲覧できるシステムを開発し、試験的運用を実施した。

## 自治体の特徴

千葉県は、四方を海と川に囲まれ、水と緑の豊かな自然に恵まれた県である。首都圏の東側に位置し、太平洋に突き出た半島で、南東は太平洋に面し、西は東京湾に臨んでいる。人口は全国で6番目に多く、平均年齢は42.4歳と全国で6番目に若い。郡部には高齢化の進んだ地域を併せ持っている。

## 人口構成・(H21.4.1 現在)

	総数	男	女
人	6,239,145	3,124,113	3,115,032
割合 (%)	100	50.1	49.9
15歳未満	835,721	427,865	407,856
15～64歳	4,164,546	2,137,863	2,026,683
65歳以上	733,767	360,906	372,861
75歳以上	380,223	163,040	217,183
85歳以上	124,888	34,439	90,449

## 女性に関する健康課題

健康ちば21では、①65歳未満の女性の死亡の半数を占めるがん対策②閉経後の高コレステロール血症対策③女性の骨粗しょう症対策④20歳未満の人工妊娠中絶を課題としていたが、人工妊娠中絶率は平成13年まで増加していたが年々減少傾向にあり、全国の実施率と比べ低い。また、若年女性の課題として①性感染症、特に若い世代で患者発生数が多く、また性器クラミジア感染症は、県内の医療機関から報告のあった患者の約8割が10歳代から30歳代で、その5割が女性である。②未成年の喫煙・飲酒があげられる。

## 事業費（千円）

(1) 思春期から30歳代における健康支援事業	4,221,655
(2) 中高年期における健康支援事業	9,380,000
(3) 女性のがん支援事業	0
(4) 企画・評価委員会	251,000
計	13,852,655

## (1) 思春期から30歳代における健康支援事業

事業名	高校生からの健康の自己管理 実態調査と健康手帳の作成
分野	<input type="checkbox"/> 健康教育 <input checked="" type="checkbox"/> 健康手帳の交付 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費(千円)	4, 222千円

## 事業目的

本県では、これまで取り組みの薄かった若年女性の中で高校生に焦点をあて、実態調査にて健康課題を把握するとともに、女性として自分の心身の健康に関心を持ち、自身で健康管理をすることができるように高校生向けの健康手帳を作成する。

## 事業対象

県内の公立・私立高等学校に通学する高校1年生(女子)

## 事業実施体制・展開

- ①実態調査および健康手帳作成を円滑に推進するため、企画・評価委員会の作業部会を設置し、その内容等について検討する。  
健康・生活実態調査, 健康手帳作業部会  
スケジュールの都合上、実態調査と健康手帳は同一作業部会として設置し検討した。  
(7) 実態調査：調査項目・内容、分析の方向性の検討等  
調査対象：高校生6,000人(男女)  
(4) 健康手帳：手帳の内容の検討等
- ②実態調査の実施にあたり、先行研究の検索や調査及び結果の分析までを専門性の高い事業者に委託する。
- ③調査対象校選定にあたっては、県内地域に偏りがないよう協力を依頼する。
- ④健康手帳の内容として、高校生の興味を引くような工夫をする。
- ⑤手帳の内容はホームページへも掲載し、広く情報提供する。
- ⑥調査対象とした学年の女子高校生全員に手帳を配布する。
- ⑦作成した健康手帳を用いて、実態調査を実施した高校から対象校を選定し、講師を派遣してがん予防を含めた健康教育を実施する。(未実施)

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- ①実態調査の回収率は、目標85%以上だったが、回収率99.2%であった。  
配布数4,972票 調査票回収数4,931票 有効回収数4904票(男2,467票、女2,437票) 有効回収率98.6%
- ②若い女性(高校生)の健康課題を明らかにする。  
(7) 女子生徒の約80%は現在より体重を減らしたいと考えており、BMI18.5未満でも22.1%がダイエットを現在も実施している。  
(4) 女子生徒の方が健康状態について良くないと回答する者が多く、生活に対する満足度や自尊感情が低い。  
また、女子生徒の方に不定愁訴が多く、イライラする、ゆううつ等では男子生徒との差が大きい。  
(ウ) 女子の喫煙(ほとんど毎日)2.5%(全国調査1.2%)、飲酒(ほとんど毎日)は0.8%(全国調査0.3%)と高い。  
(エ) 性交経験は、他の調査より比べ低い。性感染症・避妊の知識は十分でない。子宮頸がんについては知識がない。  
(オ) 月経に伴う症状が92%にあり、そのうちの69%が日常生活に影響がある。  
(カ) 自尊感情の高い生徒ほど、現在の健康状態が良いとする割合が高い。  
これまでの調査で、若い世代の性の低年齢化や加速化が言われていたが今回の調査では新たな知見が得られた。

## 事業の工夫点

これまでの健康手帳は幅広い対象者が使用できるように、各年代や女性・男性を網羅する内容で作成しており、実際の活用、普及はなかなかすすまなかった。今回は、ターゲットを高校生にあて、掲載内容について学校等で配布される教材との重複を避け、健康課題にしぼった。また、共通の関心事としてダイエットを取り上げ、高校生が手にとり気軽に読んで学べるようにまんがを編を作成した。

## 事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において、今後の取り組みの観点から検討をした。

事業計画当初は、実態調査にて課題の明確化後に課題に応じた健康手帳を作成し、手帳を用いた健康教育を実施する予定であったが、スケジュールの問題から、実態調査と健康手帳の作成が同時進行となった。

実態調査の質問項目や手帳の内容について、健康および生活面の課題を捉えるため幅広い内容を考えていたが、既存の配布物との重複や県として何が解決させていかなければならない高校生の問題かという点から内容を絞り、明らかになった課題への対応を見据えたことで、課題に対応した手帳を作成することにつながった。

手帳の作成に時間を要したこと、また期末試験、入試、卒業式、春休み等の重なる時期と新型インフルエンザの影響で総合学習の時間やLHなどの時間が少なく学校側とのスケジュールを組むことが困難であり、健康教育は実施できなかったが、調査の結果から月経に伴うトラブルなど高校生のニーズや課題が把握できた。

例えば、月経でイライラしている人や腰が痛い人が5割以上いるが痛み止めや低用量ピルを使うことでかなり改善することを健康教育で情報提供していくことでQOLを向上させることができるなど、ニーズや課題に合わせて健康教育をすすめ、健康の自己管理の一步につながる効果的な教育が期待できる。

あわせて学校の教師へ実態調査の結果を伝えていき、生徒たちの抱えている問題に向き合っていけるよう教師力を向上する働きかけを実施することにより、若い世代からの健康づくりの推進が期待できる。

生徒や教員への健康教育に向け、実態調査結果はさらに他調査との比較や分析(クロス集計)を深める必要がある。

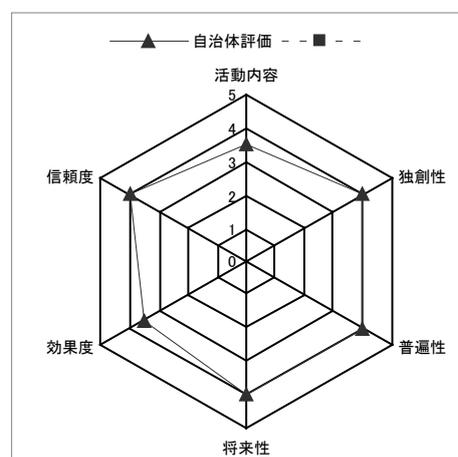
## 今後の課題

実態調査にて明らかになった知識不足や誤った認識等に対し、正しい知識や情報の提供を行うことが必要である。

教育カリキュラムが優先である教育現場の中で、いかに健康教育等実施していくか、また、個別支援を行う上で相談解決につながるよう学校外の保健師資源の紹介等学校と地域(保健所等)との連携体制をどう組むか等について保健現場と教育現場での有機的な連携が課題である。

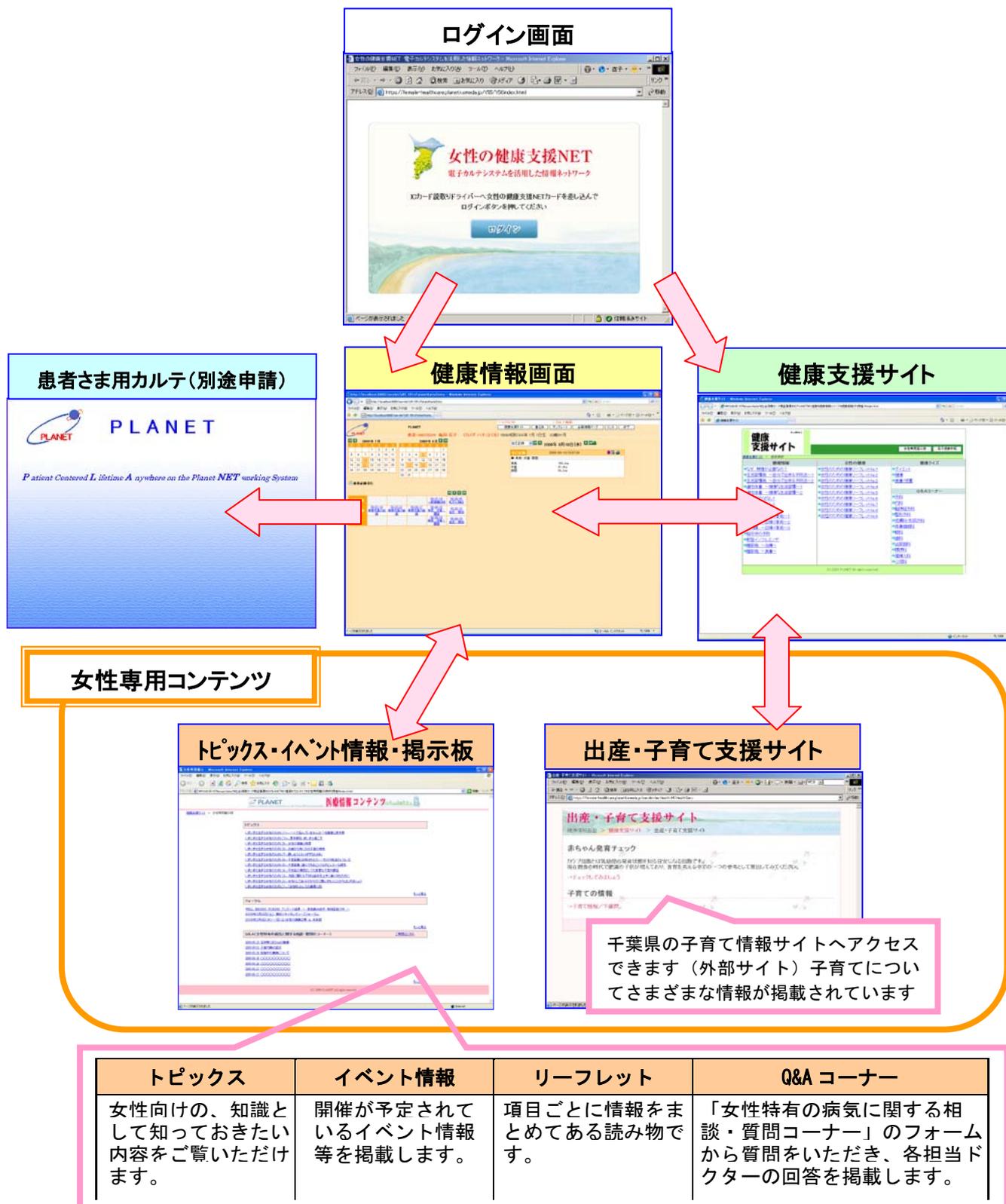
ホームページ	<a href="http://www.pref.chiba.lg.jp/">http://www.pref.chiba.lg.jp/</a>
照会先	千葉県 健康福祉部 健康づくり支援課 健康ちば推進室 043-223-2660

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.5	対象者への教育アプローチに至らなかったが、効果の期待ができる媒体作成と新しい知見や課題の明確化ができた。
②独創性	4.0	高校生に焦点をあてた学び編とマンガ編との両A面スタイルはこれまでにない。
③普遍性	4.0	全ての自治体で使用可能である。
④将来性	4.0	健康手帳の内容は基本を示しており、大きく変更の生じるものではないため将来にわたって使用できる。
⑤効果度	3.5	ニーズや課題にそったものであるため、これまでの手帳等に比べ手にとりやすい内容である。
⑥信頼度	4.0	内容は、企画評価委員会および作業部会に各分野の専門の委員にお願いした。



## システム全体イメージ

ログイン画面から、下記の矢印のようにコンテンツ間を移動できます



## ○健康情報画面

健康診断、検診等の診断結果の閲覧や、自己記録機能を使い患者さまの健康をサポートします。

診断結果	自己記録	目標値
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診や特定検診の診断結果を参照いただけます</li> <li>・数値データは表やグラフにして参照できます</li> <li>・検査項目について、すぐ調べられるように画面から説明サイトへ移動できます</li> </ul>	自己記録をフリーテキストやテンプレートから自由に入力できます	ご自身で目標を設定することで、健康管理の意欲を高めていただけます

自己記録や目標値を設定することで、継続した健康管理を行っていただけます。入力されたものは表やグラフにして表示できます。

### 自己記録・目標値入力画面

### 診断結果

検査項目ごとに基準値の表示や異常値の強調表示を行います。また時系列表やグラフにすることで、数値の変化を見やすくしてい

項目	測定値
身長	154.4 cm
体重	45.4 kg
肥満度	-44.8 %
胸囲	76.0 cm
BMI	19.0
収縮圧力(SD)	98/0
拡張圧力(DI)	88/0
脈力	130/0 mmHg
脈波	400/0 mmHg
脈波	130/0 mmHg
脈波	200/0 mmHg

## (2) 中高年期における健康支援事業

事業名	電子カルテシステムを活用した情報システムの構築
分野	<input checked="" type="checkbox"/> 知識の提供 <input type="checkbox"/> 健康相談 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供
事業費（千円）	9,380千円

## 事業目的

健診データと血圧、体重等の自己測定データを一つのITシステム上で、一元管理・閲覧できるシステムを開発し、自己の健康データへの関心、生活習慣の変容に対する意欲などの変化や、主治医や保険者等の保健医療サービス提供側が、カルテ情報と健診記録等を一元管理できることによるメリット等を調査分析し、全国各地で検討が進むと思われるITを利用した健診記録等の管理システムの開発等に資する資料を得ることを目的とする。

## 事業対象

健診データの提供から、協力市在住の20歳以上の女性

## 事業実施体制・展開

- ① 短期間で安価にシステム構築ができるため、自己記入できる患者参加型の電子カルテシステムを既に運用している県内の医療機関に委託して実施する。
- ② 作業部会としてシステム作成検討会を設置しシステムの内容等検討する。
- ③ 参加希望者のデータについては鴨川市から提供を受けるため、情報の取扱い等については十分協議する。
- ④ これまでに県で収集している健診データの分析結果等を活用し、女性特有のライフステージ毎のデータの変動を表示し個人のデータとの比較が容易にできるようにするなど、女性の健康管理に役立つよう工夫する。
- ⑤ 特定健診の対象年代に限らず、子宮がん検診や乳がん健診のデータ管理等を実施し、若年からのライフステージ毎の健康情報にも容易にアクセスできるようにするなど、幅広い年代層の女性に対しても利用できるようにする。

## 事業目標・評価項目 及び その結果

健康に関する意識・知識量・保健行動などに変化がみられる。

事業開始の遅れにより運用する期間が実質2週間となってしまったため、十分運用できなかったが以下のとおり知識の提供につながった。(参加者の事前事後アンケート調査を実施)

- ① 年齢が進むにつれ健康を意識した生活を実践するようになる。
- ② 健康のために実践していることに大きな変化はなかったが、42%の方が今まで以上に健康に気をつけたり意識するようになったと回答した。
- ③ 健康に関する知識量は全ての項目において向上が見られた。
- ④ インターネットで健康情報を調べる回数は、変化はなかった。
- ⑤ トピックスを参照し、自己の体調や検査の意義を理解できたとの声が聴かれており、長期運用により自己記録等を合わせた自己管理につながっていくものと考えられる。

## 事業の工夫点

子育て世代のコンテンツから掲示板で女性の健康に特化した健康情報の掲載の他、医師へ質問ができるようにQ&Aコーナー、また年代別の健康づくりについてリーフレットを掲載して幅広い世代の方が活用できるようした。

## 事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において今後の取り組みの観点から検討した。

運用期間が短かったことで本来の目的を果たすことはできなかったが、運用期間を延ばすことで知識・意識の変化行動変化につながると同時に内容の充実がはかられることが想定され、次年度も運用し効果の検証を行っていくこととした。

アンケートの結果から、年齢が進むにつれ健康を意識した生活を実践するようになることがわかった。子育てが終わり生活に時間的余裕が生まれる事、種々の不調や健診でのリスクの指摘などから健康に対する意識の向上があると考えられる。女性の疾患として若い世代から気をつけていかなければならない事項もあり、家事や育児で自分のことが後回しになりがち若い世代に向けての情報発信と実践を促す啓蒙活動を行っていく必要性が確認できた。今回の事業では、参加登録の必要がある会員制情報サイトであることから、参加者の健康意識はもともと高めの方であると考えられる。しかし家庭を持っている女性がインターネットを利用できる時間は限られてしまうため、平日頃インターネットを利用して健康情報を検索するようになるためには、動機付けと同時にニーズに応じたコンテンツの充実が期待される。

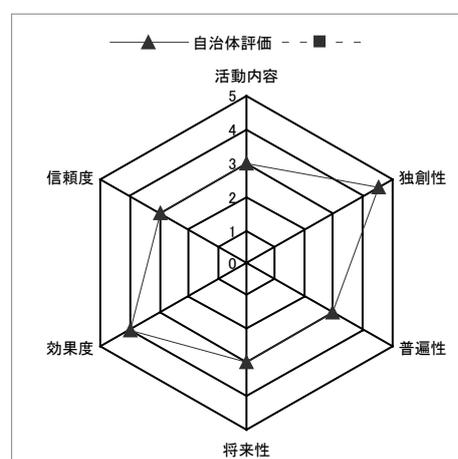
## 今後の課題

短期間の運用であったため十分な検証ができなかったが、運用期間を延長しこれまでにない医療データと健診データ、自己データを統合した健康管理の効果について検証が必要である。

また、セキュリティを強化すると外部リンク等が困難になるが、ITを活用した健康管理を実施する上では、健診情報では市町村との協議、個人情報の管理場所、通信途中の盗聴対策（SSLの暗号化）、なりすまし対策（専用ICカード（個人認証）、ICカードの不正使用対策などに留意し個人情報の扱いやセキュリティの確保の必要がある。

ホームページ	<a href="http://www.pref.chiba.lg.jp/">http://www.pref.chiba.lg.jp/</a>
照会先	千葉県 健康福祉部 健康づくり支援課 健康ちば推進室 043-223-2660

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	3.0	地域に密着しているが、限局型である。
②独創性	4.5	健診データと診療データ、自己記録データを統合するシステムはこれまでにないものである。
③普遍性	3.0	既存の電子カルテシステムの利用のため同システムそのままの普及は困難。
④将来性	3.0	地域を限局しての継続運用となる。
⑤効果度	4.0	短期間であったが効果がみられた。
⑥信頼度	3.0	運用時間が十分でない。



## (3) 女性のがん健康支援事業

事業名	健康手帳の作成
分野	<input type="checkbox"/> 啓発活動 <input checked="" type="checkbox"/> 健康教育 <input type="checkbox"/> 健康相談
事業費（千円）	0千円

## 事業目的

本県の女性の健康課題でもあるがん対策については、他事業にて検診受診率向上に向けた取り組み等各種事業を実施しているところである。本事業では、これまで取り組みの薄かった若年女性の中で高校生に焦点をあて、乳がん・子宮頸がんについて知識を得、将来、検診等の保健行動や自身で健康管理をすることができるように健康手帳の内容に盛り込み健康教育を実施する。

## 事業対象

県内の公立・私立高等学校に通学する高校1年生（女子）

## 事業実施体制・展開

- ①実態調査の内容に子宮頸がんについての項目を設定し、知識を与えると同時に認知度を確認する。
- ②健康手帳に、子宮頸がん及び乳がんについての内容を掲載する。
- ③健康・生活実態調査、健康手帳作業部会にて、①②の内容について検討する。
- ④作成した健康手帳を用いて、実態調査を実施した高校から対象校を選定し、講師を派遣してがん予防を含めた健康教育を実施する。（未実施）

## 事業目標・評価項目 及び その結果

- ①子宮頸がんについては、知識がないことがわかった。（知っている項目が1つもない者 76.4%）
- ②認知度を上げるための取り組みとして、手帳の配布がワクチンのことも含めた周知の機会となった。
- ③乳がんや子宮がんについては、がんは身近な病気であること等学ぶ機会となった。
- ④特に女性特有のがんはセルフチェックを含め若い世代からの検診行動が大切である等について初期教育となった。
- ⑤高校生への手帳の配布により、乳がん年齢である母親や祖母への波及効果が見込まれた。

## 事業の工夫点

女性特有のがんについて、身近な病気として捉えられるような例字をあげたり、検診の大切さについて知ってもらえるような内容にした。

## 事業の効果についての評価・考察

企画評価委員会において、今後の取り組みの観点から検討をした。

健康教育は、手帳の作成に時間を要したこと、また期末試験、入試、卒業式、春休み等の重なる時期と新型インフルエンザの影響で総合学習の時間やLHなどの時間が少なく学校側とのスケジュールを組むことが困難であり、健康教育は実施できなかったが、子宮頸がんについては全く知らないという結果だったため、認知度を上げるための取り組みとして手帳の配布することでワクチンのことも含めた周知の機会となった。

乳がんについては、高校生は卒業後社会に出るものもあり、セルフチェックの方法を手帳へ掲載したことは初期教育につながるとともに、乳がん年齢である母親や祖母に伝えてもらうことが期待できる。

## 今後の課題

実態調査にて明らかになったがんへの知識不足に対し、若い世代でもがんは身近な病気であること、特に女性特有のがんは若い世代からの検診行動が大切であること等、保健現場と教育現場で連携していかに健康教育等実施していくかが課題である。

ホームページ	<a href="http://www.pref.chiba.lg.jp/">http://www.pref.chiba.lg.jp/</a>
照会先	千葉県 健康福祉部 健康づくり支援課 健康ちば推進室 043-223-2660

事業評価	(企画評価委員会で評価)	
①活動内容	4.0	高校生にがんの知識を普及する取組はこれまでなく、また、母や祖母への波及効果も期待できる
②独創性	4.0	一般的な内容であるが高校生に対するものはこれまでにない。
③普遍性	4.0	一般的な内容にて、全ての自治体で使用可能である。
④将来性	4.0	子宮頸がんワクチンの公費助成や研究が進む中で変化していくが、修正を加えることで将来に渡り使用できる。
⑤効果度	3.8	知識を得る機会がないため、効果的である
⑥信頼度	4.0	内容は、企画評価委員会および作業部会に各分野の専門の委員と検討した。

